

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、途上国だけではなく、先進国も積極的に取り組む開発目標と位置づけており、日本も2016年5月にSDGs推進本部を設置し、「SDGs実施指針」や「SDGsアクションプラン」を策定し、積極的に取り組んでいます。

当財団では、この「持続可能な開発目標（SDGs）」について、企業イメージの向上だけでなく、それをきっかけとした新たなビジネスチャンスの創出も期待できるなど、持続的な成長や企業価値の向上に大きく貢献するものと考えおり、地域経営や産業振興の視点を取り入れて普及啓発を行うことといたしました。その一環として、国連本部で「持続可能な開発目標（SDGs）」を担当している「持続可能な開発目標部（DSDG）」に所属しており名古屋に所在する国連の直轄組織の国際連合地域開発センター（以下、「UNCRD」）の遠藤和重所長に4回にわたり解説いただきます。

地域で進める持続可能な開発目標（SDGs） 第2回SDGs達成を目指すためには

国際連合地域開発センター所長 遠藤 和重

*プロフィール

2018年8月より現職。1990年に国土交通省（旧建設省）に入省以来、九州地方整備局鹿児島国道事務所長、大分県土木建築部参事兼道路課長、道路局企画課企画専門官、国土技術政策研究所情報基盤研究室長、関東地方整備局千葉国道事務所長、世界銀行アフリカ局運輸交通グループ上級道路技術者、国土政策局広域地方政策課調整室長、復興庁岩手復興局次長等を歴任。

1988年京都大学工学部卒、同大学大学院修士課程修了（工学修士）、米国ネブラスカ州立大学大学院（地域計画学修士）。



1. はじめに

第1回は、SDGsとは何か、私どもUNCRDがなぜSDGsを推奨しているかなどに関する基本的なお話を申し上げました。具体的には、①SDGsが国連持続可能な開発サミットで採択された経緯、②UNCRDの活動とSDGsの関係、③SDGsの特徴、④SDGsから見た日本の現状と課題について、UNCRDが有する国内外のネットワークから得た知識や情報を紹介しました。第2回は、昨年12月に政府が発表したSDGsアクションプラン2019に掲げられた3本柱、「SDGsと連動する「Society 5.0」の推進」、「SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり」、「SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント」に焦点を当てながら、SDGs達成に向けた実施内容を具体的かつ理解しやすい形でお伝えします。本題に入る前に、環境、経済、社会の三

側面の同時達成を目指す持続可能な開発の考え方などSDGsについて簡単におさらいするため、SDGsに関するセミナーやイベントでよく取り上げられ話題になっているカードゲーム「2030 SDGs（ニイゼロサンゼロ エスディージーズ）」を紹介させていただきたいと思います。

2. 地域で進める持続可能な開発目標と2030SDGsカードゲーム

UNCRDでは、2019年2月15日に国際連合地域開発センター協力会との共催で、一般公開セミナー「地域で進める持続可能な開発目標（SDGs）2019」を開催し、一般社団法人イマココラボが開発したカードゲーム「2030 SDGs」を活用し、SDGsについてよく知らない方からすでに活動の中に取り入れていらっしゃる方まで、幅広い層に「持続可

能な開発」を体感していただきました。

このカードゲームは、SDGsの17の目標、つまりSDGsの環境・経済・社会の三側面を同時達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するゲームで、さまざまな価値観や目標を持つ人々がいる世界でどのようにしてSDGsを実現していくかを体感し、参加者に気づきをもたらすことを目的としています。

今回のセミナーでは約60名が参加し、2～3名で構成される各チームがバーチャルにお金や時間を使いながら交通インフラの整備やクリーンエネルギーの開発といったプロジェクトを行う中で、自らが実施したプロジェクトが仮想世界に与える影響を体感しました。SDGsの目標について、「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「それがあることによってどんな変化や可能性があるのか」、SDGsを知らない人や関心が低い人でもカードゲームを楽しみながらSDGsの本質を理解できるようになっています。(写真1)



(写真1) セミナー「地域で進めるSDGs2019」の様子

このカードゲームは英語版も提供されており、私は環境省と公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)が主催する研修「自治体にとっての気候変動対策：低炭素化計画の策定と実践」に参加し、東南アジア・オセアニアの5都市と日本の5都市で環境政策を担当する自治体職員の方々と英語版カードゲームを体験しました。研修参加者から、国連のSDGsの思想や取り組みについてより良く理解をすることができたと大変好評でした。

SDGsの採択から3年が経過し、具体的な取り組みを進めている企業や団体がある一方でSDGsに対する一般の認知度は高いとはいえなく、地域の方々にSDGsについての理解を深めていただき、地域における取り組みについて共に考えていただくきっかけに、このSDGsカードゲームはますます活用されそうです。

3. SDGsに関する日本政府の動向

前回お話ししたとおり、SDGsの前身であるミレニアム開発目標(MDGs)が途上国だけの問題とされ、国際社会での認識が不十分でした。これに対して、盛り上がりが見られるわが国のSDGsの取り組みは、2016年5月に設置された内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」や、行政、民間セクター、NGO・NPO、有識者、国際機関、各種団体など幅広いステークホルダーが集まり意見交換を行う「SDGs推進円卓会議」など日本政府の動向と連動しているといえます。日本政府のSDGs推進本部の開催状況は、以下のとおりで、2018年の閣議決定に盛り込まれた文言「日本のSDGsモデルを示しつつ、国際社会での強いリーダーシップを発揮」に向けた取り組みが加速しています。

- 2016年5月〔第1回会合〕
SDGs推進本部設置
- 2016年12月〔第2回会合〕
『SDGs実施指針』策定
- 2017年6月〔第3回会合〕
『ジャパンSDGsアワード』創設
- 2017年12月〔第4回会合〕
『SDGsアクションプラン2018』の決定
- 2018年6月〔第5回会合〕
『拡大版SDGsアクションプラン2018』の決定
- 2018年12月〔第6回会合〕
『SDGsアクションプラン2019』の決定

また、国内のSDGs推進本部の議論や成果は、以下のように国際社会での日本の活動にもつなげ

られています。

- 2015年9月：SDGsを採択した国連サミット
安倍総理から、SDGs実施に最大限取り組む旨を表明
- 2016年5月：G7伊勢志摩サミット
SDGs採択後初のG7サミットとして国内外の実施にコミット
- 2017年7月：国連ハイレベル政治フォーラム（閣僚級、ニューヨーク）
日本の「自発的国家レビュー」を発表

2018年12月に発表された「SDGsアクションプラン2019」では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、2019年により具体化された政府の取り組みが盛り込まれています。

- I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進
- II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり
- III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワメント

このアクションプランでは、日本は豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献していくことが目標として掲げられています。次の章からは、この「SDGsアクションプラン2019」の具体内容を紹介していきます。

4. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

1つ目の柱は企業とSDGsです。大きくは、「中小企業におけるSDGsの取組強化」、および「科学技術イノベーション（STI）の推進」の2つがあります。企業で話題になっているESG投資という概念は、投資家が企業に投資をする際に、環境問題や社会問題、ガバナンスといったことに対して企業としてどう取り組んでいるのかを重視

するアプローチです。企業が中長期的視点で社会、経済、環境の三側面の課題を意識した取り組みをしているかは、まさにSDGsそのものです。アクションプランに盛り込まれている「中小企業におけるSDGsの取組強化」の内容は以下のとおりです。

- 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組みを強化。
- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『SDGs経営イニシアティブ』を推進。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言を踏まえ、企業の取組みを促進。
- 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた途上国におけるSDGsビジネスの支援。

国連は科学技術の側面からSDGsを支援するため、年1回STIフォーラム（Science, Technology and Innovation）を開催しており、2018年6月の第3回STIフォーラム（写真2）では、国連日本代表部の大使である星野俊也氏がサンドバル・メキシコ次席大使とともに共同議長を務め、全体議論をリードしました。各国のSTI for SDGsの戦略などを可視化するSTIロードマップの議論では、岸輝雄外務大臣科学技術顧問から「STIはSDGs達成に貢献するものであり、STIで課題を解決してより良い未来社会を形成していくことは、先進国、新興国、途上国にとって良いアプローチである。一例として日本は人間中心の包摂的社会としてのSociety5.0の実現に取り組んでいる」との発言など、当該分野での日本の取り組みは大きく国際社会でアピールされました。アクションプ



（写真2）第3回STIフォーラムの様子（外務省ホームページより）

ランに盛り込まれている「科学技術イノベーション（STI）の推進」は以下のような取り組みです。

- 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『ロードマップ』やそのための「基本指針」を策定。「STI for SDGsプラットフォーム」の立ち上げも準備。
- STIフォーラムやG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

一般社団法人中部経済連合会は、政府が提唱しているSociety5.0を中部圏にあてはめた場合にどのような社会像となるかについて検討した内容を2018年2月に提言書「中部圏5.0の提唱～中部圏におけるSociety5.0の姿と実現に必要な努力～」として発表しています。東海地方は、日本の強みである工業の一大中心地であり集積地ですが、「中部圏の新社会像はこれまでの社会の滑らかな延長線上に描くことはできない」とあり、東海地方においてSDGsの意味を考えることは大きな意義がありそうです。

5. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

2つ目の柱は自治体とSDGsです。2018年6月、政府のSDGs推進本部は、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを提案する29都市を「SDGs未来都市」として選定しています。特に先導的な取り組み10事業を「自治体SDGsモデル事業」として選定し、社会・経済・環境の三側面をつなぐこれら統合的取り組みを支援することで、成功事例の普及および展開などを行い、地方創生の深化につなげていくこととしています。地方創生SDGs官民連携プラットフォームの役員を務める村上周三氏は、「自治体は持続可能な開発に必要な固有のリソースを数多く有する」、「市民・企業等に最も近い位置にいる自治体行政は、多くのステークホルダーとのパートナーシップを推進するのに好都合」など、自治体とSDGsの親和性を

述べています。「SDGsアクションプラン2019」に盛り込まれた前者の「SDGsを原動力とした地方創生」は以下のとおりです。

- SDGs未来都市の選定、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム等を推進。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博を通じたSDGsの推進。
- ICT等先端技術を活用した地域の活性化。
- スマート農林水産業の推進。

「SDGs未来都市」の2019年度分が7月1日に発表され、中部圏では愛知県、名古屋市、豊橋市のほか2県3市の8都市が選ばれました。表1のとおり2018年度も合わせると中部圏だけで16都市が選ばれています。全国で60都市が2か年で選ばれていますので、そのうちの16都市を中部圏が占めているということは、この中部圏でのSDGsに対する取り組みが積極的になってきたことの表れではないかと思います。

後者のテーマ「強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり」は、UNCRDの活動分野そのものです。UNCRDは、環境的に持続可能な交通ハイレベル政策対話（EST：Environmentally Sustainable Transport）、アジア太平洋3R推進フォーラム（3Rs：Reduce, Reuse, Recycle）を年1回アジア各国において開催しています。また、水と災害に関する有識者・指導者会議（HELP：High-level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters）の事務局業務を開始する予定であり、このようなUNCRDの活動は、「SDGsアクションプラン2019」におけるテーマ「強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築」に盛り込まれた以下の取り組みと密接に関係しています。

- 国内外における防災の主流化の推進。
- 質の高いインフラを通じて連結性を強化。
- 海洋プラスチックごみ対策を含む持続可能な海洋環境の構築。
- 地域循環共生圏づくりの推進。
- 日本の技術・経験を活かした気候変動対策への

表1 「SDGs未来都市」選定都市一覧（中部圏）

年度	提案者名	提案全体のタイトル
平成30年度	富山県富山市	コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現
	石川県珠洲市	能登の尖端“未来都市”への挑戦
	石川県白山市	白山の恵みを次世代へ贈る「白山SDGs未来都市2030ビジョン」
	長野県	学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」
	静岡県静岡市	「世界に輝く静岡」の実現 静岡市 5大構想×SDGs
	静岡県浜松市	浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」
	愛知県豊田市	みんながつながる ミライにつながるスマートシティ
令和元年度	三重県志摩市	持続可能な御食国の創生
	富山県	環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」
	富山県南砺市	「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～
	石川県小松市	国際化時代に ふるさとを未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」～PASS THE BATON～
	福井県鯖江市	持続可能なめがねのまちさばえ～女性が輝くまち～
	愛知県	SDGs未来都市あいち
	愛知県名古屋市	SDGs未来都市～世界に冠たる「NAGOYA」～の実現
	愛知県豊橋市	豊橋からSDGsで世界と未来につなぐ水と緑の地域づくり
滋賀県	世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現	

※内閣府地方創生推進事務局 平成30年度、令和元年度「SDGs未来都市」選定都市一覧から抜粋し作成

貢献。

- 省エネ・再エネ等の推進。

3年前のUNCRD45周年記念事業では、SDGsのゴール11（包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する）に焦点を当てながら、公開シンポジウムを実施しました。UNCRDは、今後中部圏の地域力を高め持続可能なまちづくりを進めていくためには何をなすべきか、また中部圏や日本の教訓を世界にどう生かすことができるのかなど国際社会に向けた情報発信に取り組んでいます。

6. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

3つ目の柱は次世代・女性のエンパワーメントです。SDGsは、「leave no one behind」誰一人取り残さないという理念のもと、すべての人々にとってより良い、より持続可能な未来を築くため、持続可能な世界の実現を目指すための開発目標です。SDGsのゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」は、すべての女性と女児のエンパワーメントを図り、あらゆる場所で女性と女児に対する差

別に終止符を打つことを狙いとしています。日本でもHAPPY WOMAN 実行委員会という組織ができ、SDGsの推進や国際デーの普及、男女が平等に参画できる社会づくりなどを目標に、年に1回国際女性デーに全国でイベントを開催しています。名古屋でも2019年3月8日、「HAPPY WOMAN FESTA AICHI 2019」が盛大に開催されました（写真3）。

「SDGsアクションプラン2019」に盛り込まれた「次世代・女性のエンパワーメント」は以下のとおりです。



（写真3）写真提供：HAPPY WOMAN 実行委員会 愛知支部

- 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」を始

動し、国内外における具体的な取組みを推進。

- 3月に同時開催するWAW！（国際女性会議）とW20（G20エンゲージメント・グループ会合）において女性活躍のための方途について議論。

次世代・女性のエンパワーメントのためには、教育・保健分野における取組みが大変重要であるため、「SDGsアクションプラン2019」の3つ目の柱には以下の取組みが盛り込まれています。

- 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「質の高い教育」を実施。
- G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、国際教育協力やUHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）を推進。

中部圏には、2007年に国連大学から認定を受けた「ESD地域拠点（ESD：Education for Sustainable Development）」が中部大学に設置されており、持続可能な社会に向けた教育に力点を置いている団体や教育機関が数多くあります。こうした場において、次世代層や女性がSDGsの担い手として

育ち、SDGsの目標年に向けて、愛知そして名古屋がけん引役になって、“誰一人取り残さないための行動”を、アジアから始め、世界へつないでいくことが期待されます。

7. おわりに

2019年は、G20サミット（6月）、TICAD7（8月）、初のSDGs首脳級会合（9月）などが予定されており、日本政府は、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、国内実施・国際協力の両面においてSDGsを推進します。SDGsを具体的な行動に移す企業そして地方は政府の各種ツールを活用しながら、SDGs推進の手法や技術を国内外で積極的に展開することが期待されます。UNCRDは、ニューヨークの国際連合本部とのパイプや関係する国際機関とのネットワークをフルに活用して官民のベストプラクティスを1つでも多く世界各国へつなげていきたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

